

第 2 1 回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名 (木村委員)

教 育 長) ここでお諮りいたします。第 2 9 号議案「平成 2 9 年度芦屋市立小・中学校管理職の人事異動に係る兵庫県教育委員会への内申について」は、その内容から秘密会で審議するのが適切と考えますが、御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認め、そのように決定いたします。

また、審議の順番ですが、関係者以外は退席することになりますので、一番最後に審議したいと思います。いかがでしょうか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認め、そのように決定いたします。

教 育 長) 次に、日程第 1、第 3 0 号議案「平成 2 9 年度芦屋の教育指針について」を議題とします。提案説明を求めます。

学校教育部主幹) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

松 本 委 員) 資料編のほうで、現状と目標で数値が減っているものが幾つもあるのですがなぜですか。そして、3 6 ページの指標 1 8 は、現状が 2 6 1 に対して平成 3 2 年度の目標が 1, 8 7 0 になっていたり、指標 2 3 は、現状が 1 4 に対して平成 3 2 年度の目標が 1 9 0 になっているように、物すごく多くな

っているところもあれば、同じページの指標15または34ページの指標10などは若干減っていますが、そのような部分について特に何か説明が必要だと思います。

学校教育部主幹) 減っている部分については、平成26年度からということですか。

松本委員) 現状平成27年度から平成32年度の目標に向けて基本、数値は増えていくものだと思っていました。

学校教育部主幹) そうです。基本的には増やす方向で取り組んでいますが、例えば英語の児童の割合の場合は、その年によって数字は多少変わってきてしまいます。しかし、下がることもやむを得ないというものではないので、その部分については来年度から力を入れて取り組んでいこうと思っています。

浅井委員) 例えば指標4の小学校の英語学習ですが、現状が92.2なのに対して目標が92.1というのは、目標の平成32年度には英語学習が導入されているからですか。なぜ減っているのかなと思いました。

学校教育部主幹) 現在、小学校の外国語活動というのは、聞いたり話したりする活動だけなのですが、今後教科化になることで学習内容が難しくなっていく可能性があります。そのときに、英語嫌いの子どもが増えることがないように、外国語活動の段階でアンケートをとったときと同じレベルを平成32年度に向けて維持していくということです。平成27年度の成果では、まだ外国語活動の段階なので同程度の92.2という数字が残っています。しかし、平成30年度から段階的に入ってきたときにこの数字が下がっていかないと、今後もこの数字を追っていかないと

いけないということで設定した値です。

浅井委員) わかりました。

教育長) 平成27年度の92.2が平成32年度に92.1という数字になった根拠は何なのか。つまり、92.1とはどのようにして出した数字なのか、その数自身にどのような意味があるのかということですね。説明を聞けば理解できるのですが、見るだけでわかるように、備考欄に記載しておけばいいのかなと思います。

学校教育部長) 備考欄のアスタリスクのところ、今後外国語活動が教科となり、中学校での外国語との円滑な接続を行うことを踏まえ、現状である平成26年度と同水準を維持していくことを目指しています。そのときの目標が92.1だったので、それを目標とすることを、説明の中に書いております。5年間の間でこの数字が、今後いろいろな形で変動していく可能性はあると思います。

浅井委員) 指標3も同様に現状の80%というのは、すごく高い値であることからということですね。

学校教育部長) そうです。ですから、現状が90%で今後95%になっていくかという、なかなか難しいです。しかし、どこを目標にするのかと言ったときに、今までの中で一番高い値である80%を目標としていくということでの設定になります。ですから、平成27年度は72.5と下がった形にはなるのですが、逆に成績自体は上がっているという矛盾したところがあります。

松本委員) ここに関しては説明がありますので、上がっているから目標はこのようになるということがわかります。しかし、指標

10や指標15などには、特に説明がなく減少しています。一方突出して増えているのは、指標18と指標23ですが、増えている理由は何ですか。

社会教育部長) 指標18も、キッズスクエア事業がベースになっているのですが、平成27年度が最初の年で実施校が2校ということになっていますので、そこをベースに考えています。実施校についても3倍に増えていきますので、担当課としてはその数を増やしていくという計画や目標を持った形で指標に記載しております。

木村委員) 増えることはいいのですが、減っていることに対して疑問を持たれたりするといけないと思うので、読む人がわかるように書いていただきたいです。

学校教育部長) 減っているというのは、平成26年度から比べた平成27年度の値ですか。

教育長) 違います。

木村委員) 平成27年度の現状よりも、平成32年度の目標の数字が減っていると、本当にやる気があるのかとってしまうので。

松本委員) 目標の数の方が低くなっているのはなぜかなとってしまう。

管理部長) 理由がわかるように記載するべきですね。

教育長) 平成27年度の現状が予想よりも非常に高かったなどという理由が必要だと思います。

学校教育部長) 前年度の80%というのは、平成26年度のことです。

教育長) しかし、平成26年度のことはどこにも書いていません。

管理部長) 平成27年度の現状である72.5しかここには記載されて

おりません。

学校教育部主幹) 皆さまがおっしゃっておられるのは、例えば36ページの指標16は平成27年度が584人に対して目標が570人ですが、平成27年度の現状が584人であるのに、目標は現状より少ない570人となっており、減っているという意味ですか。

松本委員) 584と比べたら570の方が小さいですね。

学校教育部主幹) これは570という目標に対して平成27年度は584ということなので、目標をクリアしているというふうにとらえています。

木村委員) そういうことだと思うのですが、その説明がないので、平成27年度が現状なのに平成32年度が目標で下がっていることに、読む人は違和感をおぼえます。

学校教育部主幹) 目標が下がっているという意味ですか。

木村委員) そうです。ですから、平成26年度に立てた現状があるのですが、この中ではそれが全然わかりません。平成26年度は570を目指していて、それが平成27年度では目標を高く上回る事ができたということですが、これだけを読んでもわかりません。つまり、平成27年度の現状で目標を平成32年度に立てたと思うので、なぜ目標が現状より下がっているのかということになるので、わかりやすいように変えていただきたいということです。

学校教育部主幹) わかりました。ありがとうございます。

教育長) 作成した人は頭に入っていますが、はじめてこれを見ただけでは、平成26年度は見えないのでわかりませんよね。

松本委員) そうですね。

学校教育部主幹) 目標が下がっているのではないかとということですね。

木村委員) ですから最初に、目標は平成26年度に立てたものであるなどの記載が必要になると思います。

学校教育部主幹) はい。

松本委員) そう書いていただければすんなりわかると思います。

学校教育部長) 平成26年度に立てた数字ですので、平成27年度については平成32年度の実績を上回っている場合がありますというような文言が入ればいいということですね。

松本委員) そういうことです。

浅井委員) 現状は目標をクリアしているということですね。

学校教育部主幹) 現時点ではクリアしているので、そのままキープしていこうという意味です。

学校教育部長) ちなみに平成32年度の目標は、総合計画の中にも示している目標ですので、教育指針の中で、もうこの目標はクリアしているから、次のもっと高い目標を新たに設定しようというのは難しいですので、そのような注釈を入れていきたいと思えます。

学校教育部主幹) そうですね。その部分は追記させていただきます。

浅井委員) お願いします。

教育長) 後ろ向きだと思われるのは、よくないです。

浅井委員) 31ページの、今年度の主な取り組みの富田碎花の顕彰の充実を図るというところですが、旧居の環境整備、説明板等の修理、植栽の整備はもう行われたと思っていたのですが、今からまだ行っていくということですか。

社会教育部長) 昨年度は主に建物の部分の整備をしておりました。今回はそこに入っていなかったものになります。そして、説明板の修理と植栽も行うということです。

浅井委員) 植栽はもうきれいにしたと聞いていたのですが、それはまだ途中ということですね。

社会教育部長) もう少し植栽の手入れをし、見栄えをよくしていくということです。

浅井委員) 継続してということですね。

松本委員) 28ページから記載されている読書のまちづくりに関してのところですが、学校図書館のレファレンス機能の充実というところで公立図書館と連携した研修に取り組むとあるのですが、どのような研修の予定がありますか。

学校教育部主幹) まずレファレンスにつきましては40ページの42番に語句の説明をしています。現在はなかなか連携が進んでいませんので、先進的に行っている図書館との情報交換も含めて、今後とも連携をしながらより学校図書館を使いやすくしていきたいと考えています。

松本委員) 教職員の方にレファレンスをしようと思うと、かなりの力量が必要だと思うので、何か特別な講習などをされるのかなと思いました。

学校教育部主幹) 特に今研究を進めていますのは、図書館の司書補助員、担当教員と図書館の職員を対象としたものです。この間開催した研修会では、ボランティアの方との合同研修でしたが、あのような形で図書館の方を招いての研修を進めていきたいと考えています。

松本委員) わかりました。

木村委員) 8ページの註番号が書かれている語句については、巻末に説明を示していますと記載していますが、必ずしも巻末に記載しているのではないと思うので、一番後ろを見ても出てこない場合があります。ですから、例えば39ページ以降に主な語句の説明を示していますとしたほうがいいと思います。

そして3ページの目次の、読書のまちづくりを推進しますというところですが、4-1(4)が何の記載もなく、(5)家庭・地域の教育力の向上とあるのですが、これは28ページから削除されているので、確認をしていただければと思います。

学校教育部主幹) ありがとうございます。

教育長) 3ページの一番上に記載されている平成28年は、平成29年に訂正してください。

学校教育部主幹) はい。

浅井委員) 27ページの、エ「コミュニケーション教室としてアサガオセミナーを実施します」というところですが、もう少し詳しい説明が必要ではないかと思いました。

社会教育部長) その都度中身を説明すると、若干変わってくるので、このような大まかなくくりで表現をしているのではないかと思います。コミュニケーションを図る教室をいろいろな手法でやっており、そのタイトルがアサガオセミナーになると思います。

浅井委員) これは新規の事業ですか。

社会教育部長) セミナーがこの名前だったのかはわからないのですが、やっていたように思います。

松本委員) アサガオセミナーというのは初耳だったので、内容を説明

していただけますか。

社会教育部長) はい。

松本委員) 40ページの27番ですが校務支援システムの説明の中に幼稚園、小・中学校をネットワークでつなぎとの記載がありますが、知らない人がこれだけを読むと、幼稚園と小学校と中学校をつなぐことが目的だととれてしまうと思います。

学校教育部主幹) 誤解のないように書き直します。

松本委員) 39ページ、40ページの資料編も平成28年となっています。

学校教育部主幹) はい、訂正します。

青少年育成課長) 先ほどのアサガオセミナーについて説明します。アサガオセミナーはアサガオのオープン当時から、相談センターアサガオの周知の意味も含めて実施している事業です。年間6回から8回程度、NHKの通信講座等の講師をされている先生を教育カウンセラーとしてお招きして、研修をしていただいております。実際、アサガオに相談に来られている方を中心に受講されています。毎回20人程度の受講者がいると聞いております。

浅井委員) 本人というより家族の方に向けてのものですか。

青少年育成課長) そうですね。コミュニケーション講座ということです。

浅井委員) コミュニケーションを円滑にとれるよう、本人ではなく家族の方が受講するのですね。

青少年育成課長) 本人が来られている場合もありますが、主に家族や当事者の周りの方が来られているケースが多いと思います。

浅井委員) 教育カウンセラーの方が来てくださるのですか。

青少年育成課長) はい、講師として来ていただいております。

浅井委員) わかりました。それでは、創設のときから続けている事業
なのですね。

青少年育成課長) そうです。

浅井委員) 承知しました。

教育長) 52ページに記載されている24時間いじめ相談ダイヤル
の番号は、0570-0-78310という表記で正しいので
すか。

学校教育部主幹) はい。ホームページを見て確認しましたが、再度確認をし
ます。

教育長) 正しいのであればその表記でいいのですが、電話番号でこ
のような表記は初めて見たので質問しました。

木村委員) 確かに。

学校教育部主幹) はい。もう1度確認します。

松本委員) 4ページにあたる部分の表に、学校園・家庭・地域の役割
の例示があるのですが、もう少し行間をつくらないと、読み慣
れている人でもかなりしんどいという感じがします。せっかく
書いてあるので、読み飛ばされてはもったいないと思いました。

学校教育部主幹) もう少し字を小さくして、行間をあける感じです。

松本委員) 少し読みにくいといいますか、頭に入りにくいと思ったの
で、もし変更が可能でしたら何か考えていただけたらと思いま
す。

学校教育部主幹) また印刷会社にも相談して、検討いたします。

松本委員) よろしく申し上げます。

学校教育部主幹) 今はこのようにページ数をうっていますが、実際は2ペー
ジと3ページが見開き1枚になるので、この表も見開き1枚に

はこのように、具体的な表現を用いていませんでしたが、連絡協議会などで若い先生や経験の浅い先生にもわかりやすく記述してほしいとのご意見がありましたので、このように具体的な表現を用いています。

浅井委員) わかりました。

教育長) 核となる言語というのは、この分野ではよく使われる言葉なのですか。

学校教育部主幹) はい。

教育長) 母語という言葉を使ったりしますが、核となる言語という言い方をするのでですか。

学校教育部主幹) 母語とは限らない場合もあるので、このような言い方になっています。

浅井委員) よく使われる言葉なのですね。

木村委員) どっちつかずはだめだということはよく聞きます。何か基本になる言語があり、その後に外国語になったりすると。しかし、両方の言葉を使う環境の中にいると、どっちつかずになってしまうのが一番よくないということは、よく聞く話です。

教育長) 修正をかけることができる最終の締切りはいつになりますか。

学校教育部主幹) 週明けぐらいになります。

学校教育部長) 校正はあと2回あります。

教育長) わかりました。みんなでいいものにしていきたいと思うので、気になるところはぜひお伝えください。

他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は可決されました。

〈第30号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) ただ今から秘密会で審議いたしますので、教育委員及び管理部以外の方は退席願います。

〈非公開審議〉

〈第29号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 秘密会の審議は終了いたしましたので、これより公開いたします。

〈非公開審議 終了〉

教 育 長) 閉会宣言